

認定看護師 CN-NEWS

VOL.16

2018年9月 第16号



認定看護師の活動や情報を紹介します

今年もやります！看護フェア

今年の看護フェアのテーマは「安全な看護を提供するための技」です。

各分野の認定看護師が協同し、インシデント分析から、患者さんへ安全な看護を提供する技をお伝えしたいと思います。すぐに実践できる内容となっておりますので、ぜひお立ち寄り下さい。

今回はSシール対象の研修となっております。多数のご参加をお待ちしています。



日時：10月24日（水）、25日（木）
17：30～19：00 ※2日間同じ内容
場所：臨床シミュレーションセンター

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 「安全な早期リハビリにむけて」

脳卒中を発症した方が、その後希望する生活を送れるように支援する事が私の役割です。そのために大切な事の一つに早期リハビリがあります。脳卒中は脳循環自動調節能を障害し、無理なリハビリを行うと病態悪化に繋がります。

私はリハビリ合同カンファレンスで多職種が協働して回復が促進し、患者さんの望みを取り入れた安全なリハビリの計画が立案できるように努めています。そして病棟看護師としてスタッフと生活の援助を行い、回復する患者さんを見ることにやりがいを感じ看護しています。



糖尿病看護認定看護師 「外来での活動」

4月から外来に異動になりました。食事療法や運動療法、薬物療法を生活の中に組み込むことができるように、採血結果や血圧、体重、生活状況などを患者さんと一緒に振り返りながら支援しています。

最近では、「フラッシュグルコースモニタリングシステム」という組織間質液中のグルコース濃度を連続的に測定できる血糖測定器を導入する患者さんが増えています。患者さんの血糖値の管理目標に近づけられるように主治医と情報共有しながら支援しています。



集中ケア認定看護師 「クリティカルケアコースの開催にむけて」

現在、どの病棟でも超急性期の患者さんが入院されており、看護師は様々な知識や技術が求められる状況にあります。そのため、今年度からクリティカルケアコースを開催することとなりました。

今年のテーマは呼吸／人工呼吸器編で、全4回の研修を予定していますので、ぜひ多くの皆さんにご参加いただきたいと思います。また、次年度以降も皆さんのニーズに沿った研修を企画していきたいと考えていますので、ご意見・ご要望をお聞かせ下さい。





すぐに活かせるベッドサイドケア

どこの病棟でも接する機会が多い患者さんについて専門分野からベッドサイドケアのポイントを紹介します！



急変時のワンポイントケア

救急看護認定看護師

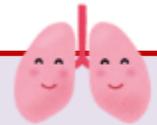
【急変時対応】と聞くと、何をしたらよいかわからないと不安に思う事はありませんか？急変時には原因検索も必要ですが、まずABCDを整える事が必要です。パッと見て行う観察ポイントと初期対応をまとめました。

Airway : 気道



- ★閉塞していないか
- 観察：呼吸や発声、異常音の有無
- 対応：気道確保、気管挿管、気道異物除去（吸引・ハイムリック法）

Breathing : 呼吸



- ★通常の呼吸か
- 観察：スムーズな会話、呼吸補助筋の使用、回数・リズム等
- 対応：酸素投与、補助換気

Circulation : 循環



- ★ショック状態ではないか
- 観察：頸動脈・橈骨動脈の触れ、手指冷感の有無、皮膚色
- 対応：静脈路確保、胸骨圧迫、AED

Dysfunction of CNS : 意識



- ★意識障害の有無
- 観察：JCS・GCS・AVPU、麻痺、瞳孔不同
- 対応：ABCの安定化

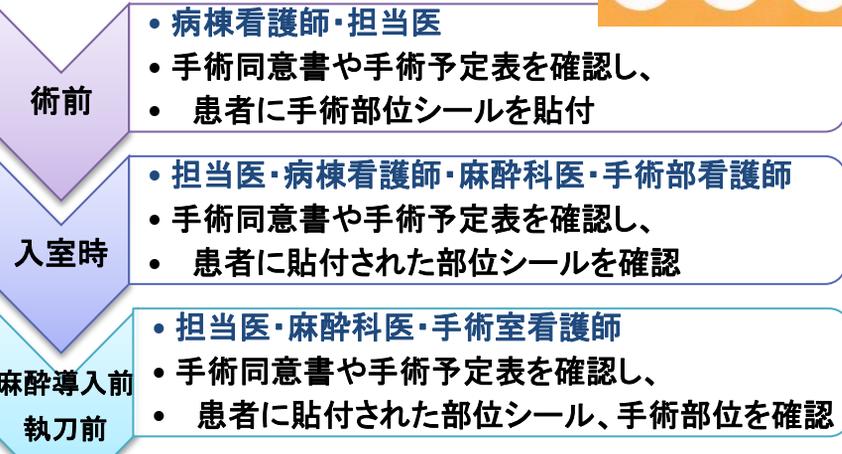
患者の急変は、誰でも焦るものです。一人でなんとかしようと思わずに、人を呼びチームで対応しましょう。12月に急変対応研修を開催予定ですので、興味のある方はぜひご参加ください！

医療チームで実施する、手術部位確認

手術看護認定看護師

医療チームで実施する手術部位確認はとても重要です。なぜならば、手術部位誤認は、患者さんの健康な身体を切開することになり、傷害レベルが非常に大きくなるためです。患者さんに確認することの必要性を説明し、協力を得ることも必要です。

手術部位確認の流れ



手術看護業務基準では、「確認の際には、複数回、複数人、複数の方法で患者自身または家族も含めて患者氏名・手術部位を確認しなければならない」とあります。精度の高い確認を複数回実施するためには、医療者個人における手術部位誤認防止に対する意識の高さや周術期を通じた医療チームの協力が重要になります。